



2026年3月期 決算説明

(2025年4月1日～2026年3月31日)

2026年5月15日

エバラ食品工業株式会社

証券コード：2819

1. 2026年3月期 決算報告 2027年3月期 業績見通し

■ 取締役 栗野 裕

2. Ebara Reboot 2026 の進捗について

■ 代表取締役社長 森村 剛士

2026年3月期 決算報告

連結業績

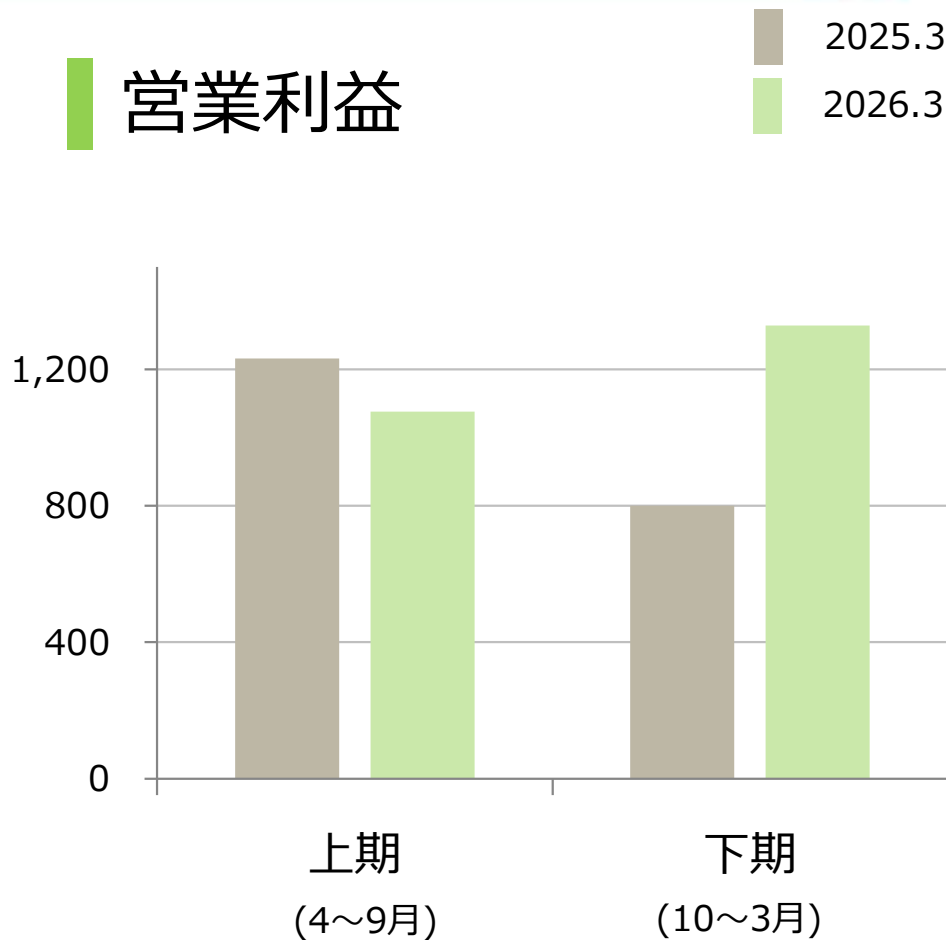
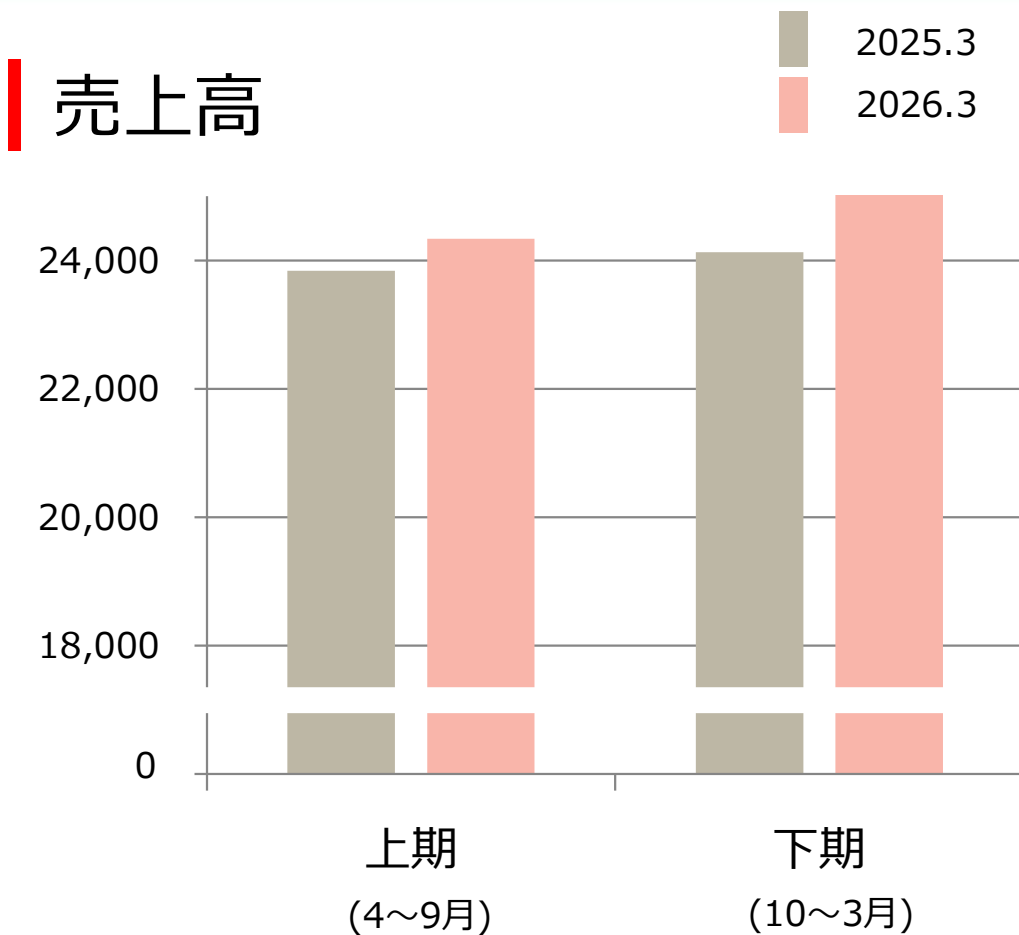
単位：百万円

✓ 前期比で増収増益、計画対比でも売上、利益ともに達成

	2025.3	2026.3	2025.3 対比		2026.3 計画対比 (2026/2/6開示)		
			増減	増減率	計画	計画比	進捗率
売上高	47,963	50,005	2,041	4.3%	49,600	+405	100.8%
売上原価	31,440 65.6%	32,997 66.0%	1,556 0.4pt	4.9% -			
売上総利益	16,522 34.4%	17,007 34.0%	485 ▲0.4pt	2.9% -			
販管費	14,490 30.2%	14,603 29.2%	112 ▲1.0pt	0.8% -			
営業利益	2,031 4.2%	2,404 4.8%	372 0.6pt	18.4% -	2,200 4.4%	+204	109.3%
EBITDA	3,545	4,088	542	15.3%			
経常利益	2,113 4.4%	2,676 5.4%	563 0.9pt	26.7% -	2,500 5.0%	+176	107.1%
特別利益	7	549	542	7,734%			
特別損益	38	538	500	1,310%			
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,399 2.9%	1,783 3.6%	383 0.6pt	27.4% -	1,700 3.4%	+83	104.9%

売上高/営業利益（半期推移）

単位：百万円



2026.3	24,337	25,667
2025.3	23,835	24,128
増減	501	1,539
増減率	2.1%	6.4%

2026.3	1,076	1,328
2025.3	1,231	800
増減	▲155	528
増減率	▲12.6%	66.0%

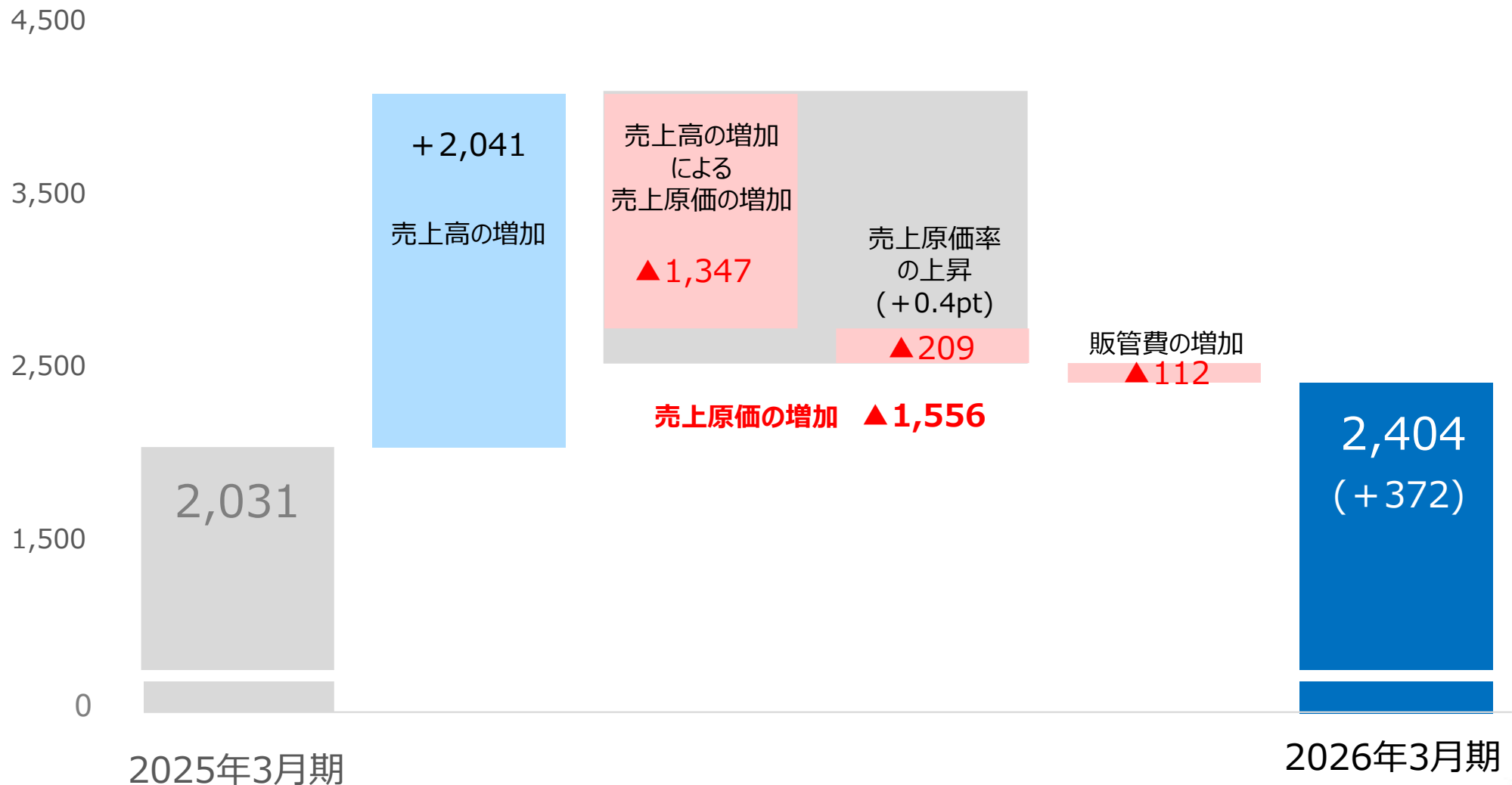
営業利益 増減分析

■ 増益要因

■ 減益要因

単位：百万円

原材料価格の影響等による売上原価率の上昇を、増収により吸収し増益を確保

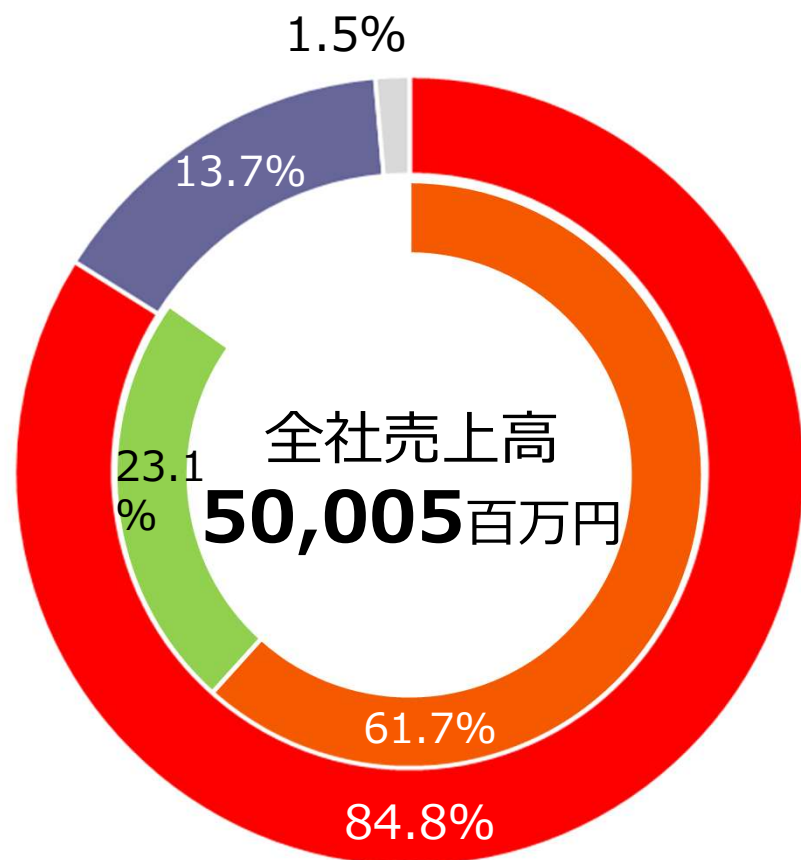




2026年3月期 決算報告

セグメント・製品区分別 売上高

セグメント・製品区分別 売上高

売上構成比（2026年3月期）



 食品事業	42,412百万円 (前期比5.1%増)
 家庭用商品	30,866百万円 (前期比4.9%増)
 業務用商品	11,545百万円 (前期比5.5%増)
 物流事業	6,838百万円 (前期比2.2%減)
 その他	754百万円 (前期比24.6%増)

セグメント・製品区分別 売上高

単位：百万円

食品事業（家庭用商品）

売上高増減率
前期比

+ 4.9%

2026.3

30,866

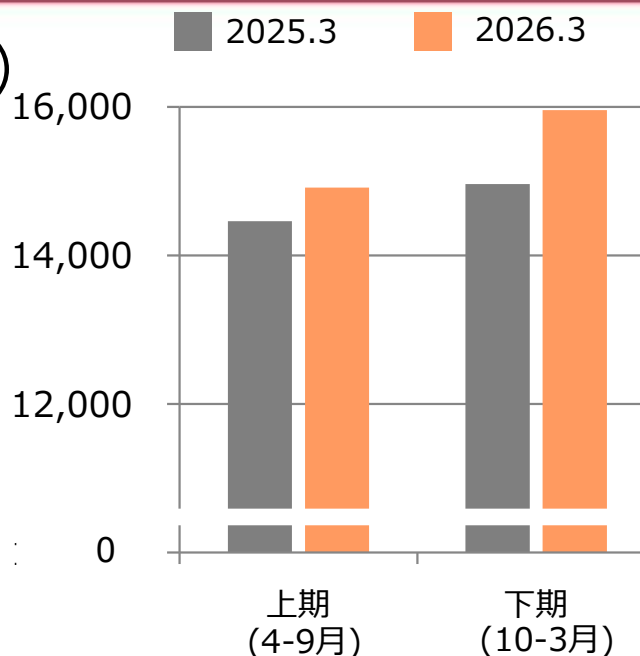
2025.3

29,419

増減

1,447

通期売上高



鍋物調味料群、その他群の売上が大きく伸長

- ・両商品群ともにポーション調味料が貢献
鍋：プチッと鍋、その他：プチッとうどん、プチッと中華

売上伸長商品(抜粋)



食品事業（業務用商品）

売上高増減率
前期比

+ 5.5%

2026.3

11,545

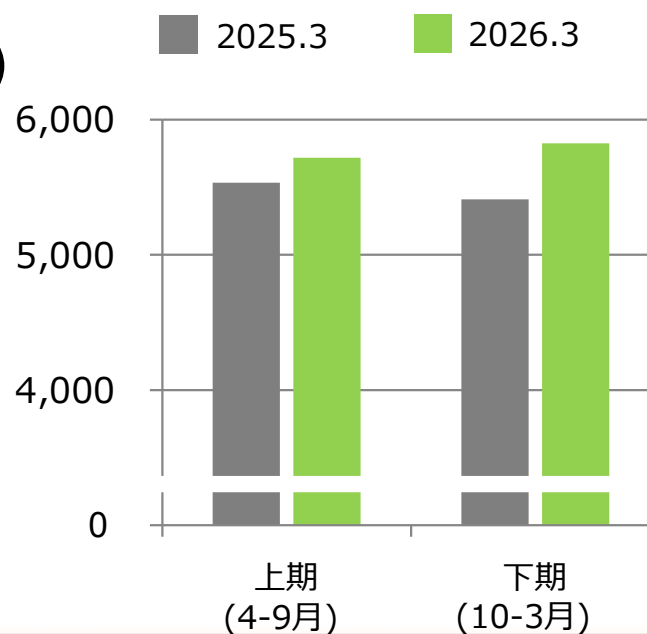
2025.3

10,945

増減

600

通期売上高



スープ群、その他群が堅調に推移

- ・海外事業の売上伸長が貢献
- ・その他群は丸二の売上伸長が寄与

セグメント・製品区分別 売上高

単位：百万円

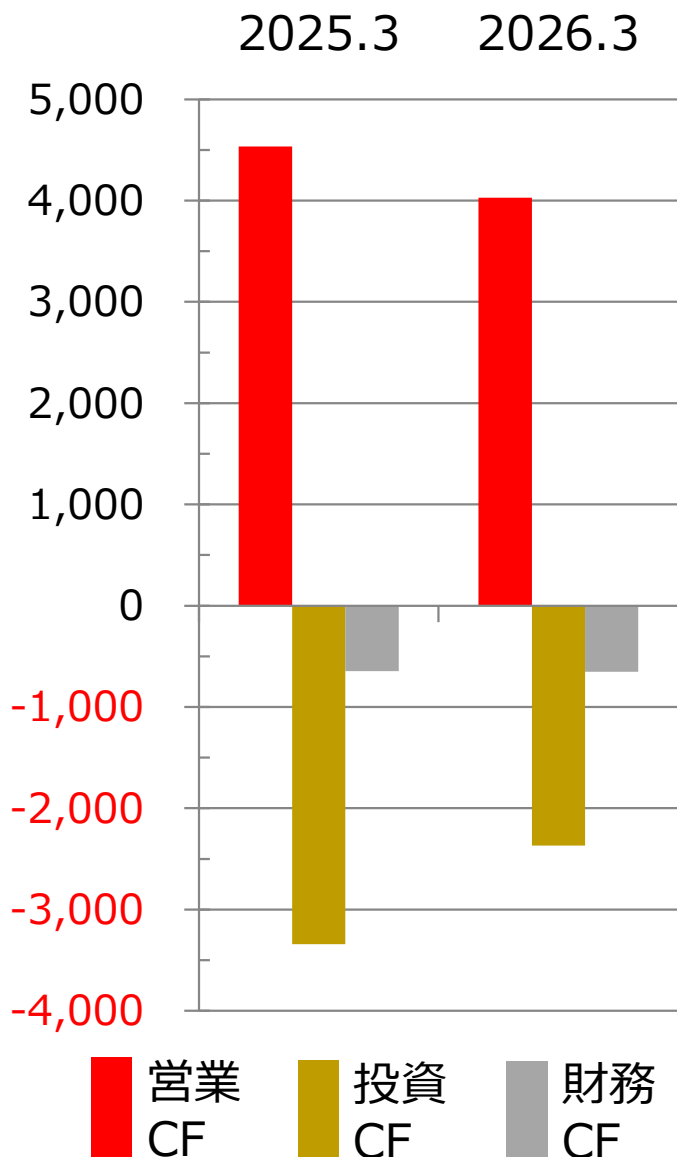
事業名称及び商品群名		連結会計期間 (2024年4月 ~2025年3月)	連結会計期間 (2025年4月 ~2026年3月)	増減	増減率
食品事業		40,364	42,412	2,047	5.1%
家庭用商品		29,419	30,866	1,447	4.9%
肉まわり調味料群		12,332	12,149	▲182	▲1.5%
鍋物調味料群		10,781	11,656	875	8.1%
野菜まわり調味料群		2,551	2,646	95	3.7%
その他群		3,754	4,413	659	17.6%
業務用商品		10,945	11,545	600	5.5%
肉まわり調味料群		3,306	3,264	▲41	▲1.3%
スープ群		3,334	3,680	345	10.4%
その他群		4,304	4,600	296	6.9%
物流事業		6,993	6,838	▲154	▲2.2%
その他		605	754	149	24.6%
合計		47,963	50,005	2,041	4.3%

2026年3月期 決算報告

キャッシュ・フロー

キャッシュ・フロー

単位：百万円



	2025.3	2026.3	増減
営業キャッシュ・フロー	4,533	4,028	▲505
投資キャッシュ・フロー	▲3,343	▲2,368	975
フリーキャッシュ・フロー	1,190	1,660	469
財務キャッシュ・フロー	▲645	▲653	▲7
現金及び現金同等物の 増加額 (▲は減少額)	612	1,155	543
現金及び現金同等物の 期末残高	14,992	16,148	1,155

2026.3

営業CF	税金等調整前当期純利益	2,687百万円
	減価償却費(のれん償却額含む)	1,683百万円
	棚卸資産の増加	▲455百万円
投資CF	有形固定資産の取得	▲2,564百万円
財務CF	配当金の支払	▲459百万円
	自己株式の取得	▲106百万円

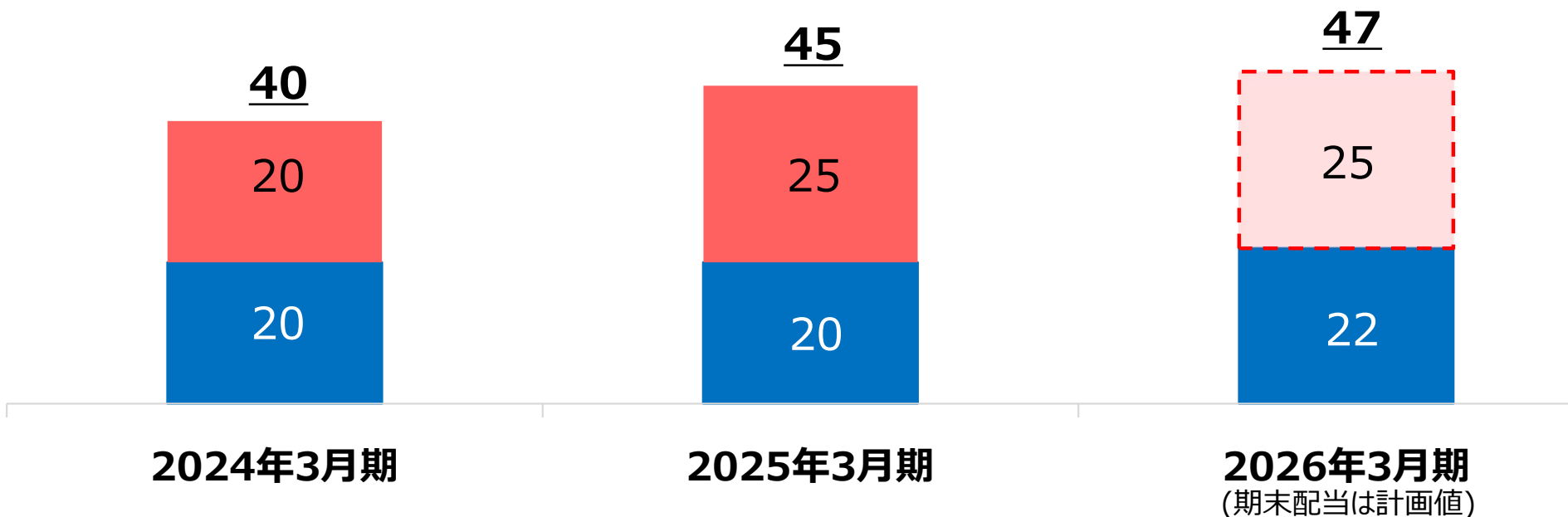
2026年3月期 決算報告

株主還元

株主還元

■ 中間配当 ■ 期末配当

■ 1株あたりの配当金額の推移(円)



配当総額 (百万円)	392	439	458
配当性向	21.8%	31.4%	25.7%
自己株式 取得額 (百万円)	0	177	106
総還元性向	21.8%	44.1%	31.7%

2027年3月期 業績見通し

2027年3月期 業績見通し

単位：百万円

	2026.3 実績	2027.3 計画	増減率	増減要因
売上高	50,005	50,200	0.4%	✓ 食品事業(業務用商品)における海外の売上伸長
営業利益	2,404	1,500	4.8%	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 売上原価約12億円上昇 - 原材料コスト上昇 - エネルギーコスト上昇 - 製造体制再編に伴う費用
			▲37.6%	✓ 販管費約1億円減少
経常利益	2,676	1,700	5.4%	
			▲36.5%	
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,783	1,000	3.6%	
			▲43.9%	

1. 2026年3月期 決算報告
2027年3月期 業績見通し

■ 取締役 栗野 裕

2. Ebara Reboot 2026 の進捗について

■ 代表取締役社長 森村 剛士

エバラ食品グループの長期ビジョン (2024-33年度)※

ミッション

- 1 国内/海外における次代の中核を成す多様な人材が育成・登用され、エバラ食品グループが密接に連携したビジネスフォーメーションの実現
- 2 製造体制の変革により、大量生産から多品種少量生産までの対応力UP、液体に加え粉末調味料分野でもビジネス領域を拡大
- 3 自社の技術力、ニッチ&トップ戦略をベースにした健康分野を始めとする新たなビジネス確立と特定領域におけるリーダーカンパニーの地位獲得
- 4 東南アジア地域における自社商品の浸透と、他グローバル地域への拡大
- 5 ICTの利活用を通じた「データ活用型経営」「業務プロセス改革」の実現

2033年度にありたい姿

**おいしさ、たのしさ、あたらしさで
食カテゴリーを創造する企業**

独自性のある商品・サービスで
人々の食生活に貢献し、
社会に必要とされる存在へ

連結
数値目標 EBITDA **60億円水準**
ROE **7%以上**

Final Phase
(2030~2033)
最高益更新

Next Phase
(2027~2029)
新領域開拓
事業成長

First Phase
(2024~2026)
成長への
基盤固め

中期
経営計画

Ebara Reboot 2026

連結
数値目標

EBITDA(営業利益+減価償却費等) **40億円**
海外売上高比率 **5%以上**
総還元性向 **50%以上**

中期経営計画 (2024~2026年度)※

中期 経営計画

Ebara Reboot 2026

重要方針

「売上拡大 = 利益獲得」ではなく、
「適正な経営資源投下による売上形成・利益最大化」に取り組む

グループ 基本戦略

1. 既存事業/領域を磨き上げ、高収益化を追求
2. 新市場/新価値創造による新たな成長軌道の確立
3. 従来 of 枠組みに捉われない経営基盤改革の深化

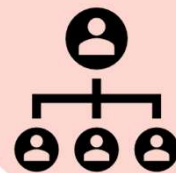
既存事業



新価値創造



人的リソース



ICT化



プロセス改革



連結数値目標

EBITDA 40億円 海外売上高比率 5%以上 総還元性向 50%以上
(営業利益 + 減価償却費等)

中期経営計画 2年目の成果

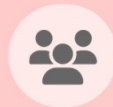
✓ 厳しい環境下でも増収増益を実現

- ・原材料価格高騰に対応した価格改定を実行
- ・利益水準を確保しつつ、売上規模を拡大



✓ グループ全体で成長

- ・国内・海外グループ会社ともに着実に成長
- ・グループ企業の業績(連結寄与分)も前期比増収増益で着地



✓ 将来成長に向けた重要判断

- ・群馬工場の操業停止を決断
- ・茨城工場建設に向けた準備を着実に推進



中期経営計画 2年目の成果

①各業績指標の進捗

◆単年目標	計画値	実績値	
売上高	480億円	500億円	初の500億円到達※
営業利益	17億円	24億円	5期ぶりの前期比増益
◆中期経営計画目標	数値目標	実績値	
EBITDA	40億円	40億円	数値目標到達
海外売上高比率	5%以上	5.1%	数値目標到達
総還元性向	50%以上	31.7%	最終年度に達成を目指す

※新会計基準の売上高において

②ポーション調味料が「黄金の味」に続く「第2の柱」に成長

・「個食」価値で競争優位を実現、認知度も拡大



今後の主要課題

重点テーマ

挑戦と成長のサイクルによる着実な成長の実現



✓ 成長領域の拡大



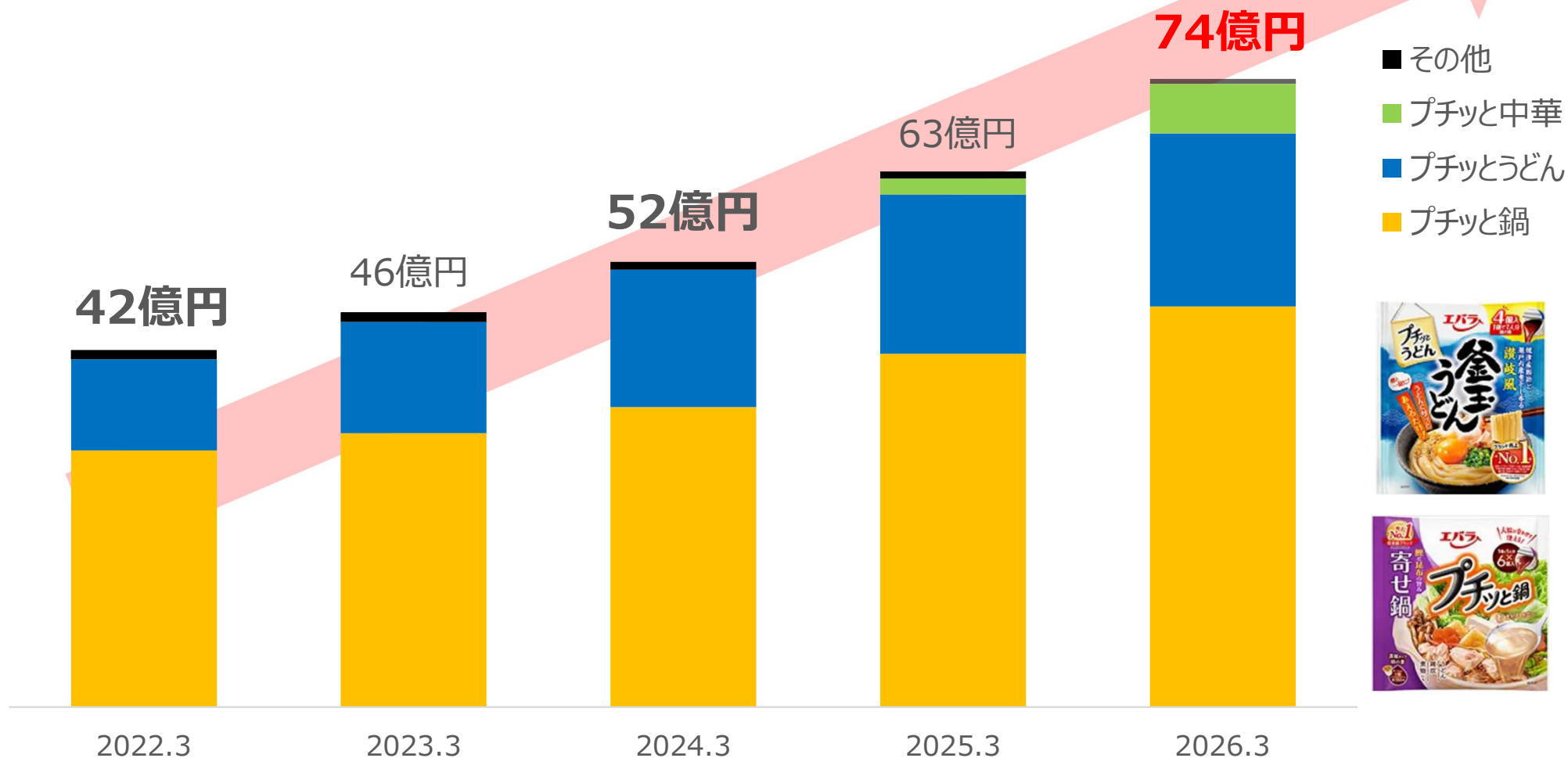
✓ 構造変革の実行



✓ 収益性の維持・向上

成長領域の拡大（ポーション調味料のさらなる成長）

- ✓ 中計3年間で売上高10億円伸長の計画に対し、2年で20億円以上の伸長を達成
- ✓ 直近5年間で売上規模が約1.8倍になり、2027年3月期もさらなる売上伸長を図る



成長領域の拡大（海外成長の加速）

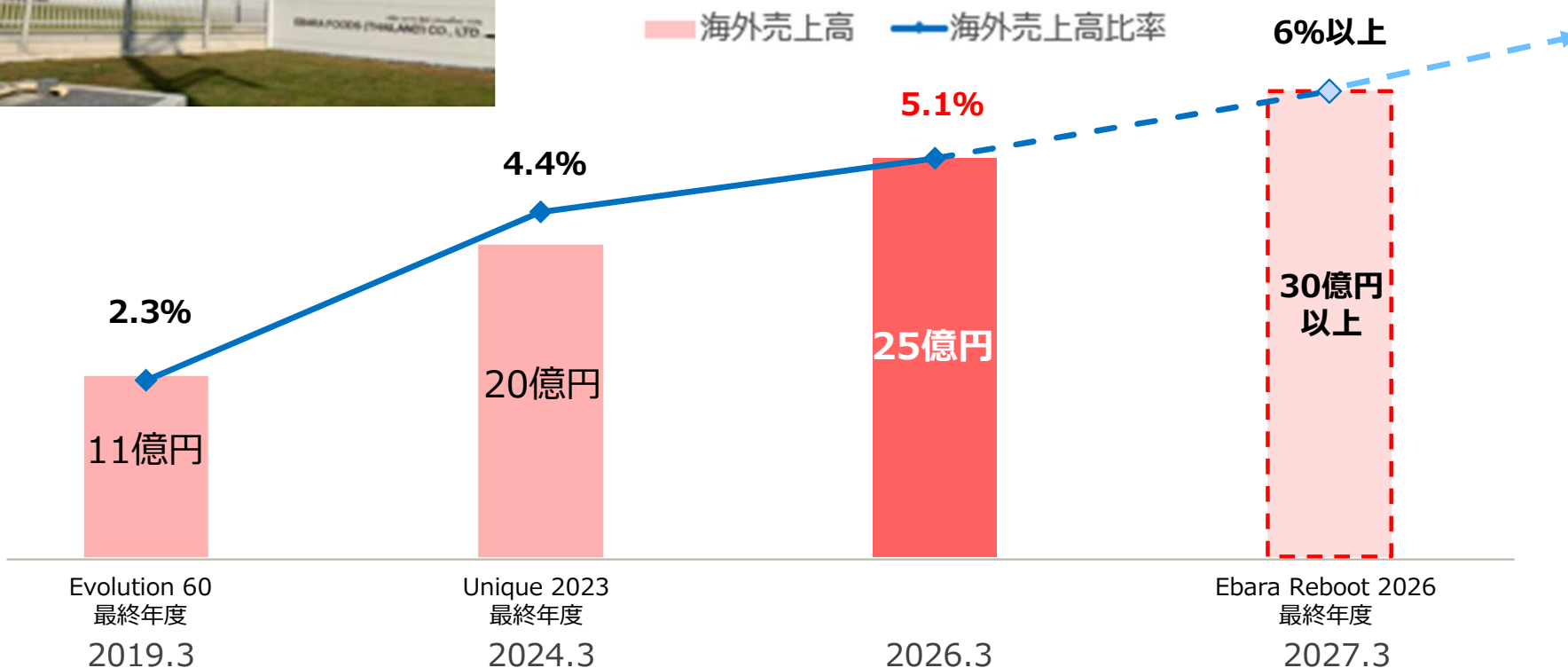
海外事業は当年度、**中計目標の売上高比率5%を前倒しで達成**

2027年3月期は新規開拓による事業規模の拡大を推進



【ミッション】

- ✓ ASEAN地域の販路拡大とタイ工場の活用
- ✓ ユーロ圏等への戦略専売品の開発と営業体制構築
- ✓ 海外人材の育成と採用



構造変革の実行

「第3の柱の創出を見据え、新商品・新カテゴリー開発を支える

中長期視点での開発体制を強化する」

◆変革のミッション

新たな食シーン創出

今まで実現できなかった
品質・容器・容量への挑戦

業務用事業の拡大

国内・海外問わず
核となる新商品開発の加速

第3の柱の実現

黄金の味・ポーションに次ぐ
主力の構想・実現

◆変革実行の基盤

国内製造体制の変革

- ✓ 多品種少量・高付加価値商品生産への対応
- ✓ 新品質設計へ挑戦できる生産ライン構築
- ✓ DXの活用による省人化、効率化の推進

新体制構築/グループ連携の推進

- ✓ 家庭用・業務用食品事業における将来ビジョン設定の旗振り役となる部署を新設
- ✓ 柔軟なモノづくりに向けた開発体制の整備
- ✓ グループ連携の強化と挑戦の推進

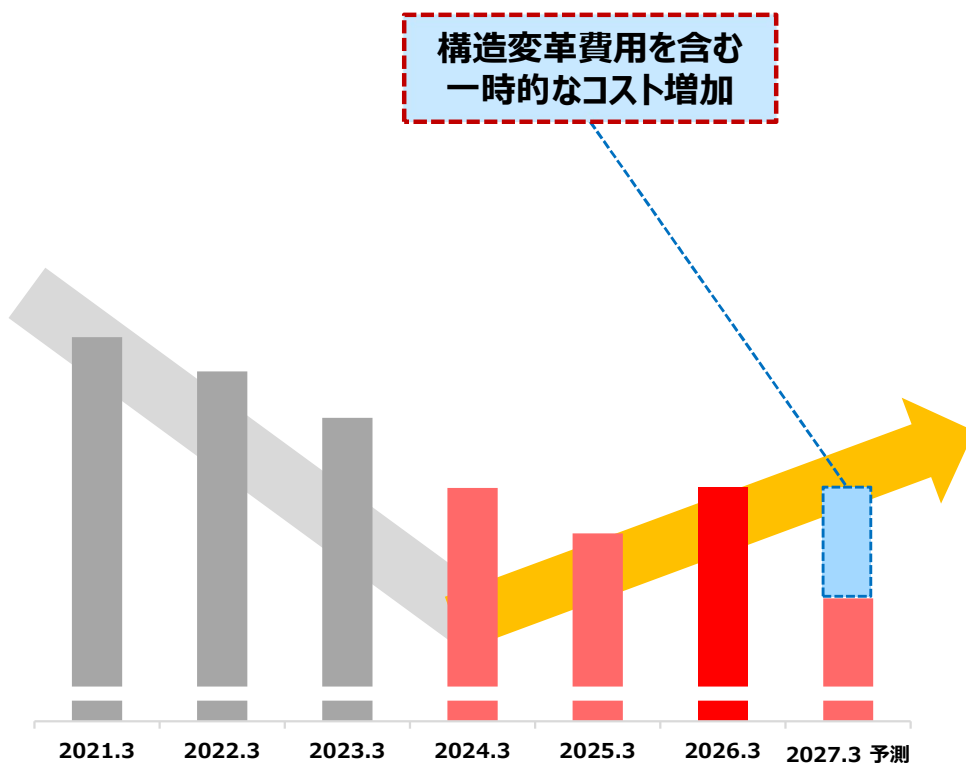
収益性の維持向上

【Ebara Reboot 2026 の意義】

減益傾向の終息、増収増益基調(成長軌道)への移行

⇒**確実な成長の積み上げによる長期ビジョン(利益水準の向上)実現**

【連結営業利益】



2027.3 単年のコスト増加要因

- ・ 製造体制の再編に伴う一時的な費用の発生
- ・ 原材料価格の上昇
- ・ エネルギー資源の価格上昇
- ・ 物流費の上昇

中長期の施策

- ・ コスト上昇対応力の強化(原材料調達の見直し)
- ・ 商品価格設定、価格改定プロセスの見直し
- ・ 商品・事業ポートフォリオの再構築
- ・ 生産物流の効率化 (業務効率化)

2027年3月期 業績見通し

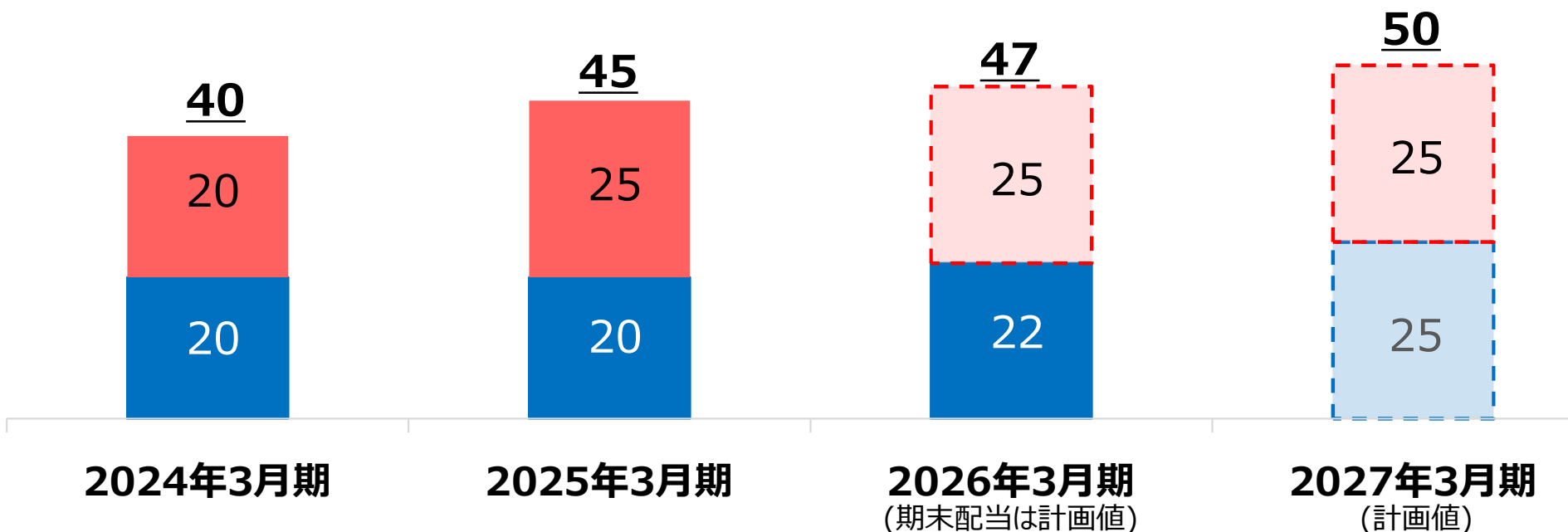
(単位：百万円)	2026.3 実績	2027.3 計画	増減率
売上高	50,005	50,200	0.4%
営業利益	2,404 4.8%	1,500 3.0%	▲37.6%
経常利益	2,676 5.4%	1,700 3.4%	▲36.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,783 3.6%	1,000 2.0%	▲43.9%

◆中期経営計画 目標	数値目標	2026.3 実績	2027.3 計画
EBITDA	40億円	40億円	31億円以上
海外売上高比率	5%以上	5.1%	6%以上
総還元性向	50%以上	31.7%	50%以上

株主還元

■ 中間配当 ■ 期末配当

■ 1株あたりの配当金額の推移(円)



配当総額 (百万円)	392	439	458	486
配当性向	21.8%	31.4%	25.7%	48.7%
自己株式 取得額 (百万円)	0	177	106	—
総還元性向	21.8%	44.1%	31.7%	(中計目標：50%以上)

～ 参考資料 ～

〔参考資料〕 会社概要

商号	エバラ食品工業株式会社
本店所在地	横浜市西区みなとみらい四丁目4番5号
代表者	代表取締役社長 森村 剛士
事業内容	調味料食品の製造販売
資本金	13億8,713万円
設立	1958年（昭和33年）5月
従業員数	【連結】861名 【単体】517名（2026年3月末時点）
連結子会社	株式会社 エバラビジネス・マネジメント 株式会社 横浜エージェンシー & コミュニケーションズ 株式会社 エバラ物流 株式会社エバラフーズ・サービス 丸二株式会社 EBARA SINGAPORE PTE. LTD. 荏原食品（上海）有限公司 荏原食品香港有限公司 台湾荏原食品股份有限公司 EBARA FOODS (THAILAND) CO., LTD. EBARA FOODS MALAYSIA SDN. BHD.
持分法適用会社	株式会社スギショーテクニカルフーズ

〔参考資料〕 沿革①

- 1958年 5月 荏原食品株式会社 設立
- 1968年 1月 『札幌ラーメンの素（味噌スープ）』発売
- 3月 『焼肉のたれ・朝鮮風』発売
- 7月 エバラ食品工業株式会社に商号変更
- 1970年 4月 テレビCM 開始
- 1978年 6月 『黄金の味』発売、テレビCMを全国一斉放映
- 1980年 7月 群馬工場（群馬県伊勢崎市）稼働
- 1984年 4月 栃木工場（栃木県さくら市）稼働
- 1 1月 宣伝部門を独立 株式会社横浜エージェンシーを設立
- 1990年 5月 株式会社エバラ物流を設立
- 1994年 4月 津山工場（岡山県津山市）稼働
- 2003年 1 1月 日本証券業協会に株式を店頭登録
- 2004年 9月 株式会社サンリバティー横浜（人材派遣業）を子会社化
- 1 2月 ジャスダック証券取引所（当時）に株式を上場
- 2005年 4月 荏原食品（上海）有限公司を設立
- 2011年 6月 チルド事業に関する合併会社 株式会社エバラCJフレッシュフーズを設立
- 2012年 1 1月 荏原食品香港有限公司を設立
- 2013年 1 1月 東京証券取引所市場第二部に市場変更
- 2014年 4月 株式会社横浜エージェンシーが株式会社サンリバティー横浜を吸収合併
- 5月 株式会社横浜エージェンシーが株式会社横浜エージェンシー＆コミュニケーションズに商号変更
- 5月 本社を横浜市西区みなとみらい四丁目に移転
- 1 2月 東京証券取引所市場第一部に指定

〔参考資料〕 沿革②

2015年	3月	荏原食品香港有限公司 シンガポール支店を設立
2017年	1月	台湾荏原食品股份有限公司を設立
2018年	8月	EBARA SINGAPORE PTE. LTD.を設立
2021年	6月	EBARA FOODS (THAILAND) CO., LTD.を設立
2021年	10月	合併会社 株式会社エバラCJフレッシュフーズの全株式を譲渡
2022年	1月	株式会社スギショーテクニカルフーズの株式を取得
2022年	4月	株式会社エバラビジネス・マネジメントを設立
2022年	5月	EBARA FOODS MALAYSIA SDN. BHD.を設立
2022年	5月	ヤマキン株式会社の株式を取得
2023年	10月	丸二株式会社の株式を取得
2025年	4月	株式会社エバラフーズ・サービスを設立

免責事項

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化等により、実際の結果と異なる可能性があります。実際の業績等に影響を与える可能性のある重要な要因には、以下の事項があります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

- 主要市場における景気動向
- 為替動向、金利変動
- 資本市場の動向
- 価格競争の激化
- 調達環境の変化
- 提携、アライアンス、技術供与による競争関係の変化
- 公的規制、政策、税務に関するリスク
- 製品、サービスの欠陥や瑕疵に関するリスク
- 研究開発投資、設備投資、事業買収・事業再編等に関するリスク
- 自然災害や突発的事象発生に関するリスク
- 会計方針の変更

こころ、はずむ、おいしさ。

エバラ